

令和4年度第2回山梨県公立大学法人評価委員会 議事概要

- 1 日 時 令和4年8月10日（水）午前9時30分～午後12時
- 2 場 所 山梨県庁本館2階県民生活部会議室 他（Web会議による）
- 3 出席者 委員 一之瀬滋輝 一瀬礼子 徳永保 中村和彦 山口由美子
法人 早川理事長 丹沢副理事長 吉田理事 ほか
事務局 百瀬県民生活部次長 林私学・科学振興課長 ほか

<委員長あいさつ>

暑い中ではあるが、本日は大変な作業で2時間半という時間がセットされている。内容には深く、それ以外の簡易なことについては簡潔に進めたいと思うのでご協力お願いしたい。

<議題>

- （1）令和4年度第1回山梨県公立大学法人評価委員会議事概要（案）について
審議の結果、案のとおり了承された。

<議題>

- （2）公立大学法人山梨県立大学令和3年度業務実績に関する評価および評価結果（案）について

○法人

資料2及び資料6により説明。

○委員長

それでは、これから評価の審議に入るので、法人関係者の方は、一度ご退席いただく。

○法人退席

○委員長

まず、I-1-1（1）教育の成果・内容等に関する目標の評価についてだが、これについては、資料2の方をご覧頂ければと思うが、1番については、委員からの指摘に対して法人からの追記があった。また、3番については、委員の評価がⅢということだが、これについて法人から、あまり追記はなかったがいかがか。

○委員

法人がⅣとした根拠理由が、「産官民」のみならず、「産学官民」と連携したという記載であったが、これをもって計画以上の実績であるということは確認できなかったのでⅢとした。今のお話の中でⅣでも構わないので、そのように訂正していただいても結構である。

○委員長

COC+Rは全国で4とか5大学しか採択されてないものなので、そのところは好意的に考えてもいいのかなと思うので、これについては、Ⅳということにさせて頂く。

4番については、概ね計画通りということで、この通りさせて頂く。

それから、5番については、委員、委員がⅡとしているが、私も教員組織の改編を行うという割には、委員ご指摘のとおり、教員組織の改編をしたということが明確にわかるような記述がなく、法人の追加資料を見ても「整理に継続した協議・検討が必要となったため、実装には至らなかった。」と記載されている。できなかったということを自分で認めているので、私もⅡの方がいいのかなと思う。

○委員

今回初めて評価委員として参加していて、評価のレベル感がわからない部分があった。実施状況に至らないということであればⅡということの良いと思う。

○委員

着手できていないということであれば、私もⅡで良いと思う。

○委員長

それでは、ここは委員会の判断としてはⅡということにさせて頂く。

それから、8番について、私だけ高く評価したが、博士課程というのは、他大学でも看板だけあって中身は入学者がゼロとかいうところも多い中で、入学者が5人もいるのは、これはなかなか頑張ったんだなと思ったが、特段私も拘りがあるわけではない。来年以降ももしこのような数字が続けば、もっと高く評価しても良いと思う。

次に10番については、委員と委員の方がⅢという評価になっているが、この点についてお考えをお示し頂ければと思う。

○委員

この項目の実績を読む限り、特筆すべき点が見当たらないのでⅢとした。

○委員

法人側がⅣとした理由が、計画以上の広報活動を実施したとあるが、当初の広報活動の具体的な実施回数や方法等が明記されていないために、計画以上であったかどうか判断できなかったためⅢとした。

○委員長

法人の方から追記があったが、従来は夏だけやっていた高校訪問を12月にもやりましたということがⅣとした理由のようだが、私立大学では毎月毎週行っているところもあるので、1年に2回しかやってないというのは私も驚いたくらいである。これは私もこの追記を見て、逆にⅢでもいいのかなと思う。

○委員

年度計画に記載がないにもかかわらず実施したということで評価したが、今の委員長の

仰ったところから判断するとⅢでいいのかなと思う。

○委員

私も同意見である。

○委員長

では、10番についてはⅢということにさせて頂く。

12番についても、委員からコメントがあったが、Ⅲということで。

それから、最後13番だが、「アクティブラーニングに関する教育方法の開発」ということが実績報告書に全く記載されていない。特に今年は中期計画最終年度であり、中期計画が実現するかという点で審査することが評価委員会の役割なので、ここでⅡとさせて頂いた。例えば、全国でも山梨県立大学方式とかいうのが有名になって、他大学がみんな山梨県立大学へ見に来るとかであれば方法開発だと言えるが、皆で議論して、それぞれの教員が独自に工夫したというだけなので、開発したとは言えず今回はⅢとしたい。

大学として開発をするということは、個々人の努力工夫ではなくて、大学として「これは山梨県立大学方式である」という形で外に発表して、他大学からも模範となるようなものを作って初めて開発したと言えるので、あんまりそういう言葉を軽率に使わないで欲しいと思う。

最後に1-1- (1) の総括評価だが、全体としてはBということにさせて頂く。

次に1-1- (2) の方に移るが、14番のところ、中期目標に定める取組に関して、法人から何にも説明がない。例えば企業が、従業員の評価を行う際にみんなFDで参加したから、それで評価が良くなるのかしたらその企業は笑われてしまう。このようなことを書けば書くほど大学による教員評価ってこんなもんかということになるかもしれないので、教員評価も定量的にやって頂きたいと思う。

○委員

評価するということが難しく、その人の意欲を見たりしなければならぬし、大学が、ここに書いてあるとおりに努力しているということであればこの評価で良いのかなと思う。

○委員長

ぜひ法人に対して、具体的に改善するよう伝えて頂ければと思う。

では、1-1- (2) の全体評価については、Aとさせて頂く。

次に、1-1- (3) だが、評価項目の15番から18番については、このとおりの評価とさせて頂く。

それから、19番については、私だけ高い評価をしたが、県の方にはメールでⅢに直して頂きたいと訂正のお願いをしたところである。アントレプレナーシップについて実績報告書に追加してもらったが、他の委員の方にとってこれは大したことはないという感じか。

○委員

アントレプレナー教育が特色あるものとして明記されていないので、ここはⅣでは高いのかなという印象を受ける。

○委員長

私も期待をしたところであるが、ここはⅢでいいと思う。他大学では部活動としてアントレプレナー教育をやっているところもあるので、ぜひそういう特徴がある取り組みを進めて頂きたい。それでは19番はⅢということにさせて頂く。

1-1- (3) 全体評価についても、学生の支援に関する目標については、Aということにしたい。

次の1-2- (1) 研究水準及び研究の成果等に関する目標であるが、20番につきましては、委員の皆様方からご意見もあるので1-2- (1) については、Aということにさせて頂く。

次に21番だが、令和2年度に引き続き2件の重点テーマ研究を推進するという事で、委員がⅢという評価だが、委員からご意見頂きたい。

○委員

Ⅳで皆様の評価と合わせさせて頂いても良いと思う。

○委員長

それでは、21番はⅣとさせて頂く。

22番、23番については委員の皆様方から、ご意見頂いているので、その通り大学の方には考えて頂きたい。

24番、25番、26番については、それぞれⅢという評価となっている。

研究実施体制の部分で私だけSをつけたが、COC+R事業を獲得したとか県議会向けに大学がこんなに頑張っているということをPRするほうがいいと思ったが、単に県議会に対する見せ方の問題で、今言ったように、全ての項目がⅢなので、ここはAにさせて頂く。このCOC+Rというのは、山梨県立大学含めて全国で4大学しか採択されていない中で、県立大学としてももう少しPR出来なかったのかなと思っていて、これこそ広報が下手じゃないかという気がする。この評定はAとするが、全国で4大学の中の1つに選ばれたんだということ、そして、COC+Rは、山梨県立大学だけではなくて、山梨大学や私立大学も加わって地域も巻き込んでいるということをもPRするべきである。

中期計画というのは途中で変更しても構わないので、COC+Rを獲得した段階で、面倒くさながら中期計画を変更するべきだったと思う。そうしないと何も評価する項目がないということになってしまうので、県と法人では反省をして頂きたいと思う。

それでは次の、大学の国際化に関する評価に移らせて頂く。国際教育研究センターの全学化であるが、中期目標に関する留学や海外研修に関する支援を拡充ということで、実績報告書に具体的な記述がないと指摘したところ、法人の方からかなり詳しい追記がされたので、27番の評価はⅢに戻していいと思う。大学の国際化に関する部分は、27番の評価をⅢとしたのでAということにしたい。

山梨県立大学って何のために作ったのかと言えば、地域貢献という部分が大きいので、地域貢献の部分でS評価にならないということでは県立大学の存在価値に関わってくるので、努力をしっかりと評価して、県議会にも大学は頑張っているんだということが分かってもらえるような取組をお願いしたいと思う。

それでは、次に業務運営の改善に係る業務の改善、効率化に関する目標の評価の方に入ら

せて頂く。まず、30番で皆さんⅣという評価をしているが、何か意見を頂きたい。

○委員

先ほど委員長から話があったとおり、COC+Rについては県立大学の特色として評価して、この部分をⅣと評価した。

○委員

地域人材養成センターの新設というのは、計画以上のものであると判断してⅣとした。

○委員長

年度計画と実績報告書を読んで、何をしたと分からない箇所があって、もうそこは法人に工夫して頂きたいと思う。

次に31番ですけれど、私と委員がⅣとしているが委員からご意見頂ければと思う。

○委員

この部分については、全国的に見てもスピーディーに取り組んだということで評価できると思う。コロナ禍においてこれは早く対応できたということも評価の一因になるかと思う。

○委員長

このくらい具体的に色々と取り組んで頂ければ高く評価していいのではないかなと思うが、もし他の委員の皆様からご賛同頂ければ、この部分についてはⅣにしてもいいのかなと思うがいかがか。

○委員

Ⅳでも私は構わない。

○委員長

それでは31番はⅣとさせて頂く。

次に32番であるが、リカレント講座については具体的な追記があったが、体制を一応整備したとか、それから計画ではリカレント講座を実施するとあるところが、実績報告書ではプログラムを構築する方向で検討したと記載されていて、受託講座については、実績は上がっているが、アライアンスとの連携によりリカレント講座を実施するということは、プログラムを構築する方向で検討した、と。また、一番上のリカレント講座を開設・実施するということに関しては、教育が提供できる体制を整備したということで、準備はしましたと記載されているが、実施したとは記載されていない。検討しただけでなくて、実施したと記載しないと、どうしても厳しい評価になる。

○委員

2つ目の部分は、年度計画のところについて検討するとされているので、私の方ではⅢと評価した。

○委員長

他の委員からもしご意見なければ、計画の半分を達成していないということなので、Ⅱと評価したいと思う。

次に 33 番だが、ここについては委員がⅢという評価をしているが、何か意見を頂けたらと思う。

○委員

年度計画通りの達成度だと判断したが、Ⅳでも構わないと思う。

○委員長

それでは、33 番はⅣとさせて頂く

次に 36 番だが、Ⅱという評価が 3 名で、委員と委員はⅢという評価になっている。

○委員

実績報告書を読む限り頑張っているのではないかという印象を受けたが、Ⅱでも構わないと思う。

○委員

他の委員のコメントを読ませて頂いて、逆にⅡと評価した方が、大学に対する期待値としては良いのではないかと思います。

○委員長

大学としてもかなり頑張っているとは思いますが、具体的な目標値が達成できなかったということが残念である。ここはエビデンスベースなので、Ⅱとさせて頂く。

県内就職率の目標値を掲げたということはかなり野心的な目標設定だと思うが、残念ながら達成できていないということなので、地域貢献等に関する目標の大項目についても B としたい。

何度も同じことを言うようであるが、中期計画は途中で変更可能である。新型コロナウイルスの影響等で、当初想定した計画が達成できそうにないと分かった段階で臨機応変に変更していくとすることができるので、先ほどのCOC+R事業に採択されたことを中期計画に付け加えるなどしておけば、地域貢献をA評価と出来るかもしれないので、この部分については手続き不足によるBだということを申し上げておきたい。

続いて、管理運営事項であるが、37番、38番、39番、40番、41番、42番については、委員の方々からコメントを頂いているが、法人自己評価と同じ評価とさせて頂ければと思う。43、44番についても同様であり、結果として、Ⅲ-1の業務運営の改善及び効率化に関する目標についてはA評価とさせて頂く。

それから 45 番について、私がコメントにも書いたが、法人の方で何か勘違いされていて、改めて説明するが、実績報告書には科研費のことしか記載されていないが、科研費というのはあくまでも教員個人に対する補助金であり、科研費そのものは大学の外部資金ではない。たまたま教員が取った科研費の 30%程度が間接経費として大学の収入になるものなので、間接経費は外部資金の本質ではない。外部資金は私が記載したように、第 1 に大学を配分対象

とする競争的資金、もう一つは、企業などからの受託研究や共同研究、それから例えば、市町村からの受託事業。そういうものを外部資金と言うので、全然外部資金のことを大学として理解できていない。せっかくCOC+R事業を取れたのに、そのことが記載されていないこともおかしい。COC+R事業が取れたのならばⅣという評価をしても良いはずなのに、それについて記載されていない。これがもし、中期計画や年度計画を変更してあれば当然Ⅳとなっても良いところであるが、計画変更されてないので、Ⅲと評価するしかない。ここは、本当に県と法人側に猛反省を求めたいと思う。

46番、47番、48番は委員の皆様同じ評価となっており全てⅢとして、資産運用の改善についてはA評価とさせて頂く。

次の49番であるが、私だけⅡという評価をしたが、ここもまた大学の方で勘違いをしており、内部質保証に関する自己点検というのは、いかにも自己点検・自己評価のようであるが、内部質保証とは大学教育に関する用語である。大学教育を水準どおり行ったということが内部質保証なので、ここに記載すべきことではない。ここは管理運営に関する自己評価について記載すべきである。

国では、ガバナンスの指標として様々なことを示しているが、特に学部とか事務局等の組織ごとにどれだけきちっと資源を配分しているのかをまず把握することを求めている。その配分した資源が、そのとおりに動いているかどうか、各組織がパフォーマンスを上げているかどうかということ点を点検する必要がある。本当ならば、自己点検・自己評価というのは、各大学の組織にどれだけ資源を配分してパフォーマンスを上げているかどうかという、どの組織でも当たり前に行っていることについて行うべきである。国では、閣議決定をしてまで各法人に呼びかけているのに、全然行っていないということはかなり問題だと思う。

ここは正直厳しいようであるが、はっきり大学教育に関する点検をもって、これを大学の法人の自己点検・自己評価と読み替えているところに欺瞞を感じるので、厳しく評価させて頂く。

○委員

まさにそのとおりで、その部分に関しては自己点検の評価、大学機関別認証評価、あるいは法人評価、監査それぞれに目的があって、また関係性があるという意味では、この理解が十分ではないと感じている。意見にも書かせて頂いたが、やはりその部分を整理した上で、評価体制を構築することが望ましいと思うのでⅡという評価に賛同する。

○委員

専門的な部分で分からないこともあったので、法人の自己評価を参考にしたが、今の説明を聞いて納得できたのでⅡでいいかと思う。

○委員

私もこのような形で評価したが、今の意見を聞いてⅡにした方が良いのではないかと思う。

○委員長

5,6年ぐらい前の状況であればこのままでも良かったかもしれないが、そのころとは状況が変わっていて、各法人に対して、その組織に対してどれだけ資源を配ったのか、それをき

ちっと把握し、その上で各組織がどれだけパフォーマンスを上げているかを把握して定量的評価をなさいと国では言っているので、ぜひ今後は注意してもらいたいと思う。それでは49番はⅡとさせて頂く。大項目についても、厳しいようだがBとさせて頂きたいと思う。

今までは、これだけお金を使って、それがどれだけ効果を上げているかということはそれほど厳しくなかった。行政においても予算どおりお金が使われていればそれでいいやということで良かったかもしれないが、今では、単に予算どおりお金が使えているかどうかでなくて、それがどういう効果を上げたかをきちっと確認することになっているので、行政とか、国立大学・公立大学も、時代の変化に応じてスタンスを変えていかなければいけないと思う。

次に50番から55番までは、委員の皆様から特に意見はなかったもので、Ⅲ-4 その他業務運営に関してはAとさせて頂く。

最後に委員の皆様から全体を通して何か意見があればお伺いしたい。

○委員

ホームページリニューアルの件で気になったところがあるが、50番のところ、「ホームページとポートレートがリンクできるようになっている」と記載されているが、ポートレートが1年以上前のものだったので、そこは大学側にお伝え頂きたい。

○委員長

他に何か意見がなければ、評価は以上の通りとし、事務局に資料の修正をお願いしたい。

次に資料3で、全体的な所見と項目の評価事項について、事務局の方から簡単に説明願います。

●<事務局説明>

○委員長

今の説明について、もちろん内容についてはこれから事務局の方で作成をして、委員の皆様方にはそれぞれメールで確認をして頂くこととして、全体の流れや様式等について意見があれば伺いたい。

特段意見がなければ事務局から説明があったように、評価書を修正のうえ、再度委員の方にメールで確認して頂きたいと思う。特に今日この場で出された各委員からの意見についても評価書に反映して頂くようお願いしたい。その上で、最終的な評価結果に関しては、私の方に整理をご一任頂けるとありがたいと思うがいかがか。

○一同了解

休憩

<議題>

●公立大学法人山梨県立大学第2期中期目標期間業務実績に関する評価及び評価結果(案)について

○委員長

それでは審議を再開させて頂く。

続いて、議題 3、公立大学法人山梨県立大学の中期目標期間業務実績に関する評価、評価結果についてであるが、これは第 2 期中期目標期間 6 年間の評価となる。資料 4 の論点整理表、具体的な業務実績報告書については資料 7 であるが、資料 7 については、前回もご覧頂いたが、先ほど会議の冒頭で法人から説明があったように、所々黄色いマーカーの部分について追記されているので、その追記された説明も見ながら議論を進めていきたいと思う。まずは、①-I-1- (1)、教育の成果・内容等に関する目標の評価であるが、改めて委員の皆様から改めてご意見、コメントを頂ければと思う。

○委員

私は途中から参加したため過去の経緯は把握していないが、真摯に取り組んでいく姿勢は非常に感じられ、国家試験でも高い合格率を残しているのも、そういった意味では評価できるものと考えている。

○委員

大学ホームページについて、従来は外部の業者に頼まないとアップデート出来なかったものを、法人内で迅速にアップデートできるというのは、事務や費用面で効率的な取組だと思うので、そこがすごく印象に残る。また、国家試験に関しても全国と比較しても高い合格率を残しているところが特に注目した部分である。

○委員

私は 2 番については B と評価したが、目標、計画値を定めるということが明記してあるので、それと比較してどのような実績を残せたのかなという観点で評価を行い、TOEIC については点数目標値が未達成であったために B とした。また、3 番の人間福祉学部についても、全国平均を上回っているけれども、計画に記載した目標値と比べるといかなものかなということで A とした。

○委員

前の議題でも出たが、大学アライアンスやまなしが大学等連携推進法人に認定されたことを受けて、現在教養教育であるとか、あるいは幼児教育、教職課程、大学院において特例措置を用いて連携開設科目を開講しているが、今後さらに対象を広げて業務の効率化、あるいは学生の就学支援について協力して徹底的に行っていきたいと思う。

国際政策学部に関しては、私も B としたが、ここは前回もお話ししたとおり TOEIC の点数目標が未達成であったことから判断をさせて頂いた。今後も点数向上に向けて取り組んで頂きたいと思う。

次に 3 番の人間福祉学部であるが、国家試験の合格率が全国を上回っている点は評価できるが、中期計画に掲げた数値目標を大幅に上回ったとは判断できなかったことから A という評価にした。

看護学部については、国家試験合格率 100% という数値目標が、非常に高みを目指しているのも、これを達成できているという意味で S と評価した。

○委員長

私は、学生のアクティブラーニング技法を促進する教育方法や評価方法を開発・実践するというのが計画に記載されていたのに、行ったことは単にFD、ファカルティディベロップメントと言って、教員が集まって自分たちで自己研修を行うということであり、よくある職場の自主的な研修会のことを思い浮かべて頂ければいいと思うが、あくまでも内部の取組である。

もし、仮に開発しているのであれば、きちんと内容を公表して、他大学の関係者や専門家の評価を受けてしかるべきものであり、それで初めて開発したと言える。自分たちの内部の研修で、お互いに工夫しているというのは開発とは言わないと思う。

それからもう一つ、成績評価のところで厳しい評価をつけたが、山梨県立大学はこの問題に取り組んだのは全国でもかなり古い方である。これは清水前理事長・学長が、こういったことについての専門家なので、学生による授業アンケートについては全国的に見ても早い時期に取り組んだと思っているが、大変残念ながらいまだに学生の授業アンケートだけという状況である。

専門科目については、厳しい試験を行うので、それによって知識能力というのは確認できるが、コメントにも記載したとおり、今は汎用的スキルという、もう少し幅広い、例えばプロジェクト計画の策定能力であるとか、コミュニケーション能力だとか、人間関係形成能力ということ、きちっと確認していきましょうねという時代になってきて、そうなってくると、そのような能力についてどのように評価しているのかとなるが、あまり記載されていない。清水前理事長が着任した頃に始めたことを、まだ同じようにやっているだけという印象を受けた。時代が変わっているので、専門教科の試験では確認できないようなことを確認することをきちっとやって欲しいなと思うが、成績評価については、これは私の希望としてこれから次期中期目標期間に取り組んでいただくことにすればいいので、7番についてはA評価に変更したいと思う。

それでは、委員の皆様の評価が分かれているところについて、国際政策学部のところでは、確かにTOEICの目標が目標値に達してないので、Bが妥当かなとも思う。

○委員

ここは委員長はご存知の通り、かなり長い間私がお伝えしてきたところなので、あえてBにさせて頂ければ。

○委員長

これはずっと先生が厳しくやっている。私もここは具体的な数字に達してないのでB評価でもいいと思うがいかがか。

○委員

数値目標を設定してそれを達成できていないのでB評価ということであれば、それで良いと思う。

○委員長

それでは国際政策学部のところはBとさせて頂く。

あと問題は人間福祉学部についてであるが、ここは全国平均を上回る合格率を残していることは凄いことであると思うので、S評価としてもいいのかなと思うがいかがが。

○委員

結構である。

○委員長

それから、看護学部については、もし委員にご賛同いただければ、Sということでもよろしいのかなと思うがいかがが。

○委員

目標が100%というのは到底企業で掲げる目標ではないが、100%といったのに達成出来ていないのであれば、それについてあまり高い評価が出来ないのではということでAと評価した。

○委員長

確かに委員の仰るとおり達成すべき具体的な目標が高すぎたということはあるが、素晴らしい合格率を残しているのも、もしよろしければSということにさせて頂きたいがいかがが。

○委員

Sでも構わない。

○委員長

それでは看護学部についてはSとしたい。

最後の7番、成績評価についてはAとするが、私のコメントの内容をぜひ大学に伝えて頂きたいと思う。

それでは大項目についてはAということにさせて頂く。

それからその次のI-1-(2)であるが、Aという評価で一致している。

次の学生支援のところについては、何か委員の皆様からご意見頂きたい。

○委員

コメントに記載したとおり、高い就職率を維持できたことについて評価できると思う。

○委員

様々な取り組みを行ったことは評価出来ると思うが、このウの就職支援の部分は、就職率100%を目指すというところで、目標値に対してどうなのかという観点で評価して、達成できていないということでBにしたが、特にそんな強いこだわりがあるわけではないので、ここはA評価としても構わない。

○委員長

繰り返しになるが、コロナのような状況で、なかなか想定してなかった事態が生じたのであれば中期計画を速やかに変更するのが普通で、計画を変更していないのであれば、委員が仰ったように、正直これはBとせざるをえない。目標を定めた以上は達成するのが当たり前である。先ほど委員から出されたことも同じであるが、達成が難しい状況になり、それが自分の努力の範囲外の状況変化に起因するものであれば、それは速やかに中期計画の変更を行うことが求められるわけなので、今回はAということで甘い評価とするが、今後は予想しえない状況が発生した際には速やかに計画を変更するということを今後は心がけて頂きたいと思う。

次にI-2-1(1)研究水準及び研究成果等の部分であるが、これは委員全員がA評価ということなので、大項目も含めてA評価とさせて頂く。

I-2-1(2)研究実施体制の整備に関する目標についてであるが、これについては、私から意見だけでも1回改めて申し上げるが、大学の研究というのは、基本は大学の構成員の自立性ということもあるし、当然研究については研究の自由ということが保障されているので、教員が好きな研究を行うというのはその通りであるが、ただ、大学としての組織的な体制をもって臨む研究ということであれば、各大学の特性を生かした形で、組織的に取り組んで頂ければと思う。

そうすると、地域研究課題の選定については大学で一方向的に選定するという方法もあり、私立大学であればそれでいいのかもしれないが、県立大学という特性を考えると、今後、地域研究課題の選定については、関係企業とか、県の関係部局、関係団体といったところから意見を頂く、あるいは他大学との連携を含めて考えて頂きたい。

例えば、長野県立大学というのは、自分でやることもやるが、どちらかという県内の大学の連携の事務局の役割を持っている。地域の課題に即した研究を進めるという時には、山梨大学以外にも山梨県内の私立大学とも連携を図り、研究課題を設定するかということに関して、県内企業、県関係部局、関係団体の意見を聞いて設定をしていくということをぜひ進めて頂きたい。そうでなければ、他の大学と何ら変わらないということになるので、県立大学には県立大学らしい工夫や取り組みをして頂きたい。

それでは、次に大学の国際化に関する目標であるが、特に委員の皆様から、評定に関して意見は記載されていないが、私もJICAとの連携協力をやっているのであればきちんと書くように言いたかったが、それも含めて何か特に国際化に関する目標についてご意見あれば伺いたいが、特になければそのまま進めさせて頂く。

次に、大項目で地域貢献に関する目標に移るが、地域貢献に関する目標、これについては全体を通じて何かご意見を頂ければと思う。

○委員

全体については、COC+Rを通じて、地域貢献している姿が見えていると感じ、そこを評価している。

○委員

県内の就職に関してだが、やはり県立大学であるというところではあるので、さらに国際政策学部とか人間福祉学部では、さらに県内の就職率を高めるための取組を進めて頂きたいと思う。

○委員

看護についての部分になるが、人口減少に伴って深刻な問題でありますので、県立大としての特色と魅力について向上するよう一層力を入れていって頂ければと思う。

それから、山梨大学とのアライアンスの枠組みを活用したコロナワクチン接種の実施等についても、大変地域貢献したのではないかとということで高く評価している。

○委員

COC+Rはまさに地域創生する取り組み、これが重点であると思うので、しっかり評価をして、そのことについてきちんと明記していくということが大事だと思う。

2つ目は、県内就職率の向上に関しては、2期中の取り組みの成果とか、あるいは課題についてしっかり検証して頂きたい。そして、その検証をもとに分析をして、取り組みを新たなものにして頂きたいと思う。

○委員長

委員の皆様が仰るとおりで、単に目標を掲げてそれができなかったというだけではなくて、どうしてそれができなかったのかということについて検証して頂ければと思う。このことに関して言うと、大学だけの意見云々ということではなくて、県からの様々な意見とか、あるいは山梨県の中の経済団体、経営者団体、個別の経営者、業界団体の方からの意見も聞いて頂ければと思う。その関係者の意見を踏まえて、なぜ目標が達成できなかったのか、今後、こういったことを次期中期目標で実現していくためには何が必要なのかということを考えて頂きたい。

○委員

コロナで山梨県に戻ってくる方が増える。それぞれ努力していると思うが、学生がどのようになっているのか、そのまま大学で調査して頂く中で、それに基づいて努力頂くこともあると思う。本質を知りたいが、最近は多様化する社会の中で大学も昔とは変わっているので、そういうのも変わってくるのかなと思う。

○委員長

山梨県は、例えば阪急の創設者とか、東武鉄道の創設者とか、もう山梨県の中にとどまらないで、全国で活躍する人材を輩出している。そういう意味では県内就職にあまり拘るといっては逆に、山梨県の長い伝統の中では違うのかもしれない。

どんどん優秀な人材を、全国的に活躍する人材を送り出すということもあるのかもしれないが、一方で県内就職率の向上も課題なので、文部科学省の方では、例えばジョブ型インターンシップという形で、学生が企業に2週間、あるいは1ヶ月程度のインターンシップを通じて自分の将来について考えていく、あるいは企業の現場とか、あるいは福祉施設とか、実際に働くところの現場を学生が知って、自分で提案して、それを大学の地域研究の課題に生かしていくようなことをすれば、また違ってくるのかなと思うので、結果はともかくとして、もう少しきめ細かい努力や取り組みをして頂きたい。

このところは、一番肝心の地域への優秀な人材の供給がBということになったのは大変

残念ではあるが、大項目全体としては、Aということにさせて頂く。

次に、Ⅲ-1の業務運営の改善及び効率化についてであるが、繰り返しのようになってしまいが、部局ごとのコスト、資源範囲のエビデンスベースでのパフォーマンスの継承、そのことが教職員配置とか事務の効率化に繋がるので、例えば配置している教職員や事務職員の数で、いかに効率化させるとかということではなくて、そもそも今の配置数が適正なのかどうか、足りないのか多過ぎるのか、そういうことから検証していかなければ事務の効率化は難しい。

既に国立大学では進められていることなので、山梨県立大学でも取組を進めて頂きたい。その上で、そもそも、組織配置とか、そもそも組織編成の問題とか、そういう部分から、きちっとガバナンスベースで考えて頂けたらと思う。

その次の管理運営の財務内容の改善に関する事柄に移るが、これも繰り返しのなるが、とにかくCOC+Rをとった、こんな凄いことを記載していないということ自体が理解できないぐらいなので、資料7の30ページをご覧頂きたいが、6年間で総額1億6979万円入った。この規模の大学で、6年間で約1億7000万獲得したということを何で記載しないのかと。

科研費の総額と比べても遙かに大きい金額であり、それを記載しないと法人は何を考えているのかなとさえ思う。書いて頂ければ、当然Sという評価もやぶさかではない。

あと委員からご意見頂いたように、科研費採択件数、委員からはアライアンスを通じて経費削減を行った点が評価できるというコメントを頂いたので、ぜひこういったことについては記載して頂きたい。

ただ今後ですね、科研費の採択率が注目されているが、外部資金の獲得という計画に対しては具体的な入金額の問題になる。研究に対する評価であれば、どれだけ申請してどれだけ採択されたかというのは研究活動の評価になりますが、ここは外部資金の獲得なので、一番金額の大きな科研費は1億円近いものもあるが、普通は大きな科研費でも1000万円、普通の科研費で100万円とか300万円であり、法人には間接経費としてその30%が入金されるので、重要なのはこの間接経費の合計獲得額である。だから、財務のところで記載するのであれば、採択率ではなくて入金額について実績が上がっているかどうかということが大事になる。

筑波大学は、科研費の採択件数では全国でも5,6位とかすごく高いが、入金額で見ると20位以下になってしまうこともある。医学系の学部がないので仕方ないのかもしれないが、そういう意味では、外部資金の獲得について記載するのであれば、これからは採択率ではなくて実際の入金額について記載してもらいたい。

次の自己点検については、先ほどの年度評価と同じことなので、繰り返しのなるが第1期目の中期目標期間であれば十分だと思うが、2期目の中期目標期間にかなり大きな変化があるということの中で、現理事長には申し訳ないが着任される直前の2018年あたりからこういうことを強く言われてきているので、管理に着目した自己点検をやってくださいということで、B評価とさせて頂きたい。冒頭にも説明したが、1期目であれば、十分この内容でも合格点だと思うが、社会が変化しているときに、同じことをやっても合格点をもらえないということは、厳しい言い方になってしまうが申し上げておきたい。

次に4番のその他業務運営等に関する目標に移るが、これは先ほど委員からもウェブサイトについて指摘があったが、私も他の国立大学の経営協議会委員や評価委員を務めているが、山梨県立大学にはパンフレットのようなものがない。県議会、あるいは県民向けに、私たちはこんなことをやっていますよ、こんな成果を上げていますよという、分かりやすいパンフレットの作成について工夫して頂きたい。山梨大学では作成しているのではないかと思う。

○委員

山梨大学では、高校生向け、企業向け、県民向けに作成している。

○委員長

それから、この場を借りて説明させて頂くが、文部科学省では大学設置基準の大幅な改正案を示していて、令和6年の4月から実施する予定であるが、その中で大きなものは基幹教員制度というのがあり、今までは大学の専任教員は数が決まっていて、規模に応じて必ずこの人数を置きなさいと決まっているが、今後は4分の1までは企業や福祉施設、看護現場とのクロスアポイントでもいいですよ、あるいは山梨大学とのクロスアポイントでもいいですよということになる。そうすると今までは全部自分で人件費を払っていたものが、これから例えば、先生方の4分の1まではですね、企業で研究されている人が県立大学で事業を行うことも出来るし、あるいは、実際の看護の現場で従事している方が県立大学で教授をすることが出来る、あるいは山梨県立大学と山梨大学の両方で教授を兼任できるということになるので、ぜひ今後基幹教員制度の活用について検討して頂きたいと思う。

また同時に、施設について、これまでの設置基準では体育館や運動施設について、必ず設置しなければならなかったが、これからは必須ではなくなる。例えば極端なこと言うと、県立大学の体育館を県の教育委員会に移管して、授業で優先使用はするものの、地域の住民の方も使えるようにして使用料を徴収するというのも可能なので、体育館や運動場を営利施設に転換するというのも可能になる。そういうことについて検討して頂きたい。

管理運営事項については、社会の変化に対して的確に対応していくみたいな記述を入れて頂きたいということをお願いしたい。校舎と校地については、きちっとした修繕計画が必要だが、体育館とか運動施設については、大幅に考え直して頂いて、もう法人では大規模改修は行わず、県教育委員会やスポーツ事業の管理団体に移管してしまうということも含めてご検討頂ければと思う。

それでは引き続き、第2期中期目標期間の業務実績に関する評価結果について事務局から説明をお願いしたい。

○事務局説明

○委員長

今のご説明について、何か質問や意見等があれば伺いたいが、特になければさらに評価書を修正したうえで事務局から委員の皆様へメールで送って頂き、確認をして頂ければと思う。その上で全体的な最終整理は、私の方に一任して頂ければと思うがいかがか。

○一同了解

○委員長

以上で評価に関する審議は終了するが、全体としてもう一度言っておきたいこと、また今後の第3期中期計画に向けて、ぜひ委員の方々から言っておきたいようなことがあれば、仰って頂けたらと思う。

○委員

先ほどの県内就職率のところ、委員長が仰っていたように、県外に出て成功している山梨県出身者も大勢いる中で、企業誘致ということも考えて就職率を高めるということを視野に入れて目標や計画に反映して頂けたらと思う。

○委員

今後少子化がさらに進んでいく中での看護に関する人材確保、それから定着、質の向上、良い資質を持った学生の輩出というようなことで、同時にそのことを含めた教育、それから県内でスペシャリストを目指させるというキャリア形成がこの小さな山梨県で可能となっていることがすごく素晴らしいことだと思うので、さらに充実して頂けたらと思う。

○委員長

委員にお伺いしたいが、先ほど話した基幹教員制度で、今後看護学部教員の最大 4 分の 1 までは看護現場と大学の教授を兼ねることも可能になるが、看護の現場ではその制度を受け入れる余地がありそうか。

○委員

現在でも様々なところから単発で要請を受けることも多いが、そういったことも可能だと思うので、連携を深めていけたらと思う。

○委員

地域に根差す公立大学として、第 2 期の反省を生かして課題を明確化をして頂きたいと思う。その上で、先ほど委員長から話もあったが、国立大学は第 4 期に向けて評価指標の設定が義務づけられた。より適切な評価がしやすくなるように、県立大学においても評価指標をしっかりと設定して取り組んで頂けたらと思う。

○委員長

今、委員の皆様方からコメント頂いたので、そのことを踏まえながら進めて頂ければと思う。特に委員の話にあった適切な評価、エビデンス、定量的な評価指標を設定することがとても大事なので、そこは先ほどの 100% みたいな目標を設定するとかえって大変になってしまいが、そこはそれぞれの項目にふさわしいことをぜひ考えて頂ければと思う。

例えば、外部資金の獲得というところについては、ぜひ採択率ではなくて、いくら入金があったのかというような、それぞれの項目にふさわしい目標を設定することも必要かなと思う。

以上